第10回 レポートの書き方II (2)

最終レポートとプレゼンテーション

第11回 (2014-06-26)	テーマを確定する。アウトライン（骨組み）を組み立てる。
第12回 (2014-07-02)	必要な資料を収集・整理する。アウトラインを提出する。
第13回 (2014-07-09)	レポートを作成して、添削を受ける。
第14回 (2014-07-16)	レポートを提出する。プレゼンテーションを練習する。
第15回 (2014-07-23)	最終のプレゼンテーションをする。内容をお互いに評価する。

レポートを書く

レポートの構成

たいていのレポートは「**序論**」「**本論**」「**結論**」の三部構成になっている。

- 序論「読む人に向けて、これから何について、なぜ書こうとするのかを知ってもらう」
  - 背景の説明：前提なる知識や事実を紹介
  - 問いの提起：どこに問題点・疑問点を見つけたのか、何を明らかにしたいのか
  - 主張の提示：問いに対する自分の主張（意見）
  - 全体の構成：レポート全体の議論の展開の概説
- 本論「問題提起したことへの答えを出す」
  - 先行研究：これまでに行われた研究・調査の紹介と検討
  - 用語の解説：基礎資料をもとに、専門用語や概念を説明
  - 事実の提示：（複数の）事実を明らかにする（詳細に）
  - 意見の提示：事実に基づく意見を述べる（詳細に）
  - 最終的な主張の提示
- 結論「全体を通しての主張をまとめる」
  - 全体のまとめ：これまで述べたことを整理し、最終的な主張の妥当性を確認する
  - 評価と展望：ここまでに述べたことを客観的に自己評価し、今後どのように発展させるか
- 参考文献「どんな資料や情報をもとにして考えたか」
  - レポートで引用したり、執筆するうえで参考にした書籍・論文・ウェブページをリストにする

レポート作成の手順（タイトルの決定から資料の収集へ）

1. 背景の把握
   - 大まかなテーマに関する基本的な情報を集める（新聞、インターネット、事典など）
   - テーマとなっている問題や課題について、全体像や大まかな内容を理解する
2. 問題提起
   - （与えられた）大きなテーマから、具体的なテーマに絞り込む
   - 社会的な問題点や疑問点、興味・関心のあるの具体的な事柄、また明らかにしたいと思う事柄を明確にする
3. 仮説の提示・主張
   - それらの事柄への対応策・解決策に関する自分なりの考えを仮説として述べる
   - また、調査や研究の必要性やその方針を検討する

4. 主題（表題）の決定
    - 問題提起や自分の仮説（主張）をもとに、その主張や内容が伝わる、具体的なタイトルを考える
5. 資料の収集・整理
    - 問題とした事柄や自分の仮説（主張）を裏付けるような、資料を収集する
    - 専門図書や雑誌・論文など、具体的なテーマに関する文献（先行研究、参考文献）を集めて、整理する
6. レポートの構成の検討、テーマの再検討
    - 集めた資料をもとに、レポート全体の構成（アウトライン）を検討する
    - 集めた資料から、テーマをさらに絞り込んだり、考えなおしたり、再検討する

テーマを決める方策

1. 「よくわからない」ような言葉が、テーマの有力候補
    - 「興味があるだけ」ネタでは、思い込みがあったり、つまらないテーマになりがち
2. 「問い」をたてる
    - テーマの中でできるだけ焦点を絞り込み、表題だけで主張や内容が伝わる、具体的な言葉を考える
    - 「〜について」は駄目（「自分の主張＝テーマへの問い」になっていない）
    - 扱う問いは適切に（壮大すぎる問題、二者択一的な問題、専門的すぎる問題は避ける）
3. テーマは絞り込んでいく
    - 基本的情報（背景、キーワード）→＜社会的な問題、自分の興味・関心＞→明らかにしたい課題（具体的テーマ）

アイデアをひき出す・整理する

アイデア（発想）をひき出したり整理する方法として、以前紹介したマインドマップのほかに、次の方法があります。

皆でアイデアをひき出す（ブレインストーミング：ブレスト）

1. 与えられたテーマについて思いついたことを、カードや大型のポストイットに、1枚につき1件書く
    - 「最低一人○件以上」という条件をつけるとよい
2. 全員のカードやポスイットを、壁や模造紙などに張って、簡単に説明する
3. 説明に対してはポジティブに反応し、反対意見がある場合は新しいアイデアとして提案する
4. 他のひとの意見やアイデアを参考にして、新しいアイデアを出してもよい

自分でアイデアを整理する（KJ法、親和法）

1. ブレストをして出てきたアイデア全部を一覧できるようにする
2. アイデアの意味や特徴を確認しながら、似ているものを集める
3. 集められたカードやポストイットのグループに、名前を付ける
4. グループに分けたアイデアを参考に、グループごとや全体について、最初からの作業を何回か繰り返す

参考文献

- 森時彦, ファシリテーターの道具研究会「ファシリテーターの道具箱」, ダイアモンド社 (2008.03).
- 石井力重「アイデア・スイッチ」, 日本実業出版社 (2009.07).
- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」, 北樹出版 (2011.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」, くろしお出版 (2011.03)
- 中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナヴィゲーター」, くろしお出版 (2007.04)